

令和3年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜（I型）
教育学部
第三類（言語文化教育系） 日本語教育系コース
小論文問題 出題の意図

【第1問】

教育の本質について、受験生がどの程度深く考えているかを問うことが、第1問の出題意図である。「人は何のために学ぶのか」という哲学的な問いに、唯一の正解はない。しかし、福沢諭吉は『学問のすゝめ』で、一つの解釈を提示している。生まれつきの身分が人の運命を左右した江戸時代に対し、福沢諭吉は、学問による「働き」が評価される、新時代の平等な価値観を提示した。『学問のすゝめ』はベスト・セラーとなり、教育や学問は、明治の人々の希望になった。一方、福沢諭吉の思想が功利主義に傾いていることも事実である。国家や社会に実利をもたらす、個人の栄達を実現する手段としてのみ、学問が理解されている。純粋な「学ぶ喜び」「学ぶ楽しさ」「人間的な成長」については、あまり顧慮されていない。受験生が自らの意見を表明する余地は、十分にある。

【第2問】

世界の情報がテレビや映画、インターネットが発達した現在では、他国の人々や他文化に対するステレオタイプが非常に容易に形成されるのみならず、それが利用され、強化されている例が散見される。異なる文化の人々が直接接触している場面でも、ステレオタイプは大きな影響力を持ち、時に暴力や排斥につながることもある。多文化社会オーストラリアの異文化接触の事例を読むことにより、このような現代的な異文化接触の課題にも批判的な目を向けられるか、自らの異文化接触経験を振り返ることができるか、自分が考えたことを柔軟に表現できるのかを見たい。